

報 告 書

WTT ユースコンテnder バンコク 2023

女子：2023年9月11日(月)～13日(水)

男子：2023年9月15日(金)～17日(日)



主催 (公財) 全国高等学校体育連盟卓球専門部

令和5年度 全国高体連卓球専門部海外遠征
[WTT ユースコンテNDER バンコク 2023]

1. 大会名 WTT ユースコンテNDER バンコク 2023
 2. 大会期日 女子：令和5年9月11日（月）～13日（水）
 男子：令和5年9月15日（金）～17日（日）
 3. 会場 「Fashion Island, Island Hall 3rd Floor」
 4. 宿泊先 「The Grand Four Wings Convention Hotel」 Tel +660 2378 8000
 5. 日程

(女子)

1	9/8(金)	17:00	前泊者集合（関空エアポートワシントンホテル）
2	9/9(土)	9:45 11:45 15:35	関西空港 集合 空港発 TG-623 便 バンコク空港着
3	9/10(日)		練習
4	9/11(月)		11～12 U17 12～13 U19
6	～13(水)	23:59	バンコク空港発 TG-622 便
7	9/14(木)	7:30	関西空港着、解団式、解散

(男子)

1	9/12(火)	17:00	前泊者集合（関空エアポートワシントンホテル）
2	9/13(水)	9:45 11:45 15:35	関西空港 集合 空港発 TG-623 便 バンコク空港着
3	9/14(木)		練習
4	9/15(金)		15～16 U17 16～17 U19
6	～17(日)	23:59	空港発 TG-622 便
7	9/18(月)	7:30	関西空港着、解団式、解散

6. 役員・選手名簿

役 職	氏 名	所 属	備 考
団 長 男子監督 女子監督	宗片 信一 石田真太郎 岸 昌宏	青森県：青森商業高等学校 福岡県：希望が丘高等学校 神奈川県：横浜隼人高等学校	
男子選手	坂井 雄飛 石井 祐季 小野 泰和 鈴木 柊平	愛知県：愛工大名電高等学校 福岡県：希望が丘高等学校 島根県：出雲北陵高等学校 石川県：遊学館高等学校	
女子選手	上澤 杏音 桧山 夏望 遊佐 美月 伊藤ゆづき	大阪府：香ヶ丘リベルテ高等学校 神奈川県：横浜隼人高等学校 愛知県：愛み大瑞穂高等学校 愛知県：桜丘高等学校	



【女子】2023.9.11～13

U17

◎予選リーグ

桧山 夏望	3	11-8 12-10 9-11 11-4	1	Pritha Priya VARTIKAR India
桧山 夏望	3	11-5 11-6 11-3	0	LEE Eng Kee Eudora Singapore
伊藤ゆづき	3	11-3 11-9 11-6	0	AI LIS Gan Malaysia
伊藤ゆづき	2	11-7 11-9 9-11 8-11 9-11	3	Natsima DIKAENG Thailand
上澤 杏音	3	11-4 11-4 11-7	0	WONG Hiu Lam Hong Kong, China
上澤 杏音	3	11-5 11-6 11-9	0	Kaashvi GUPTA India
遊佐 美月	3	11-8 11-8 11-9	0	Wirakarn TAYAPITAK Thailand
遊佐 美月	3	11-5 11-6 11-6	0	Dianah YAPISO Philippines
遊佐 美月	3	11-6 11-5 11-3	0	Subhankrita DATTA India

◎トーナメント1回戦

桧山 夏望	3	11-8 7-11 8-11 11-5 11-1	2	Deshna Vanshika MOHAN India
遊佐 美月	1	11-6 8-11 7-11 10-12	3	SUN Sinan China
上澤 杏音	3	9-11 11-7 11-7 11-8	1	CHEN Min-Hsin Chinese Taipei
伊藤ゆづき	3	11-8 11-0 11-8	0	LIM Wen Syin Malaysia

◎トーナメント2回戦

桧山 夏望	3	11-5 12-10 12-10	0	LAW Sum Yee Sammi Hong Kong, China
上澤 杏音	3	11-9 7-11 11-7 11-6	1	DING Yijie China
伊藤ゆづき ベスト16	2	12-10 12-14 9-11 11-8 10-12	3	YAN Yutong China

◎準々決勝

桧山 夏望 ベスト8	0	7-11 9-11 9-11	3	QIN Yuxuan China
上澤 杏音	3	10-12 11-9 14-16 11-6 11-9	2	Phatsaraphon WONGLAKHO Thailand

◎準決勝

上澤 杏音	3	11-8 11-7 10-12 11-3	1	LIU Ru-Yun Chinese Taipei
-------	---	-------------------------------	---	------------------------------

◎決勝

上澤 杏音 優勝	3	5-11 12-10 11-9 11-8	1	QIN Yuxuan China
--------------------	---	-------------------------------	---	---------------------

U19

◎予選リーグ

桧山 夏望	3	11-5 11-8 11-7	0	CHEN Chi-Shiuan Chinese Taipei
桧山 夏望	3	11-4 11-2 8-11 11-7	1	Kaashvi GUPTA India
伊藤ゆづき	3	11-4 11-9 11-9	0	Risha MIRCHANDANI India
伊藤ゆづき	2	3-11 6-11 11-6 11-9 11-13	3	LIM Jing Shuen Malaysia
上澤 杏音	3	11-9 11-4 2-11 9-11 11-8	2	LIU Ru-Yun Chinese Taipei
上澤 杏音	3	9-11 11-3 12-10 11-5	1	LAW Sum Yee Sammi Hong Kong, China
遊佐 美月	0	7-11 10-12 4-11	3	PENG Yu-Han Chinese Taipei
遊佐 美月	2	3-11 11-9 11-8 8-11 7-11	3	CHAN Shiu Lam Chelsea Hong Kong, China

◎トーナメント1回戦

伊藤ゆづき	3	10-12 11-9 8-11 11-4 11-3	2	WONG Hoi Tung Hong Kong, China
上澤 杏音	3	11-7 7-11 11-9 11-7	1	CHEN Chi-Shiuan Chinese Taipei
桧山 夏望	3	11-5 11-6	0	Supamas PANKHAOYO Thailand
		11-7		

◎トーナメント2回戦

伊藤ゆづき ベスト16	2	12-10 10-12 11-4 4-11 5-11	3	Wirakarn TAYAPITAK Thailand
上澤 杏音	3	14-12 11-7 11-7	0	CHENG Pusyuan Chinese Taipei
桧山 夏望 ベスト16	0	10-12 4-11 7-11	3	ZHANG Xiangyu China

◎準々決勝

上澤 杏音 ベスト8	1	11-8 6-11 8-11 3-11	3	ZONG Geman China
---------------	---	------------------------------	---	---------------------

【男子】2023.9.15～17

U17

◎予選リーグ

石井佑季	1	6-11 5-11 15-13 2-11	3	孫楊 (中国)
石井佑季	3	11-6 11-2 14-16 11-6	1	ウォン・ファイシュン (マレーシア)
坂井雄飛	3	11-6 11-5 11-5	0	チョンラシス・ブーンシリワチャクル (タイ)
坂井雄飛	3	7-11 11-2 11-4 11-6	1	クマール・ハーシット (インド)
小野泰和	3	11-9 11-4 13-11	0	キム・ビョンホン (韓国)
小野泰和	3	11-0 11-6 11-8	0	ルー・ジェンシン (マレーシア)
鈴木柊平	3	11-4 11-5 7-11 11-4	1	キム・ガンヒョン (韓国)
鈴木柊平	3	13-11 7-11 11-8 11-9	1	ルーカス・ジョルリング (スウェーデン)
鈴木柊平	3	11-5 11-6 11-5	0	ジョン・ソリアーノ (フィリピン)

◎トーナメント1回戦

石井佑季	3	11-9 11-6 11-7	0	ツェン・ツユ (チャイニーズタイペイ)
小野泰和	3	11-5 11-6 11-6	0	ワサフォンヤタワノン (タイ)
鈴木柊平	3	11-6 9-11 11-1 11-8	1	ヨー・ライアン (シンガポール)

◎トーナメント2回戦

石井佑季 (日本)	2	7-11 11-8 11-9 11-13 7-11	3	鈴木柊平 (日本)
坂井雄飛	3	11-8 12-10 11-5	0	ホー・ウェイヤン (マレーシア)
小野泰和	3	11-5 11-8 11-9	0	フン・チェイエン (チャイニーズタイペイ)

◎トーナメント3回戦

鈴木柊平 ベスト16	0	11-13 5-11 6-11	3	ウェン・ルイボ (中国)
坂井雄飛	3	6-11 13-11 11-9 9-11 11-6	2	石倉城 (中国)
小野泰和 ベスト16	0	8-11 9-11 5-11	3	チェン・ヘンダー (中国)

◎トーナメント準々決勝

坂井雄飛	3	11-6 11-7 11-8	0	HSU シェンチア (チャイニーズタイペイ)
------	---	----------------------	---	---------------------------

◎トーナメント準決勝

坂井雄飛 3位	1	11-6 7-11 9-11 4-11	3	ウェン・ルイボ (中国)
------------	---	------------------------------	---	-----------------

U19

◎予選リーグ

石井佑季	0	6-11 4-11 8-11	3	チャン・ボードウィン・ホ (中国香港)
石井佑季	3	15-13 11-6 11-2	0	スジャル・パニク (インド)
坂井雄飛	3	11-9 11-5 11-5	0	アーメド・アクヒヤル (ラオス)
坂井雄飛	3	11-1 11-2 9-11 11-6	1	ルドラ・ゴーシュ (インド)
小野泰和	3	4-11 6-11 11-7 11-2 11-9	2	エリアス・シェーグレン (スウェーデン)
小野泰和	3	11-6 11-5 11-8	0	ナワチェット・ブラソンポル (タイ)
鈴木柊平	0	7-11 5-11 7-11	3	チョ・デヒョン (韓国)
鈴木柊平	3	11-8 9-11 11-2 11-5	1	イ・ヨンイ (マレーシア)

◎トーナメント1回戦

石井佑季	0	8-11 8-11 3-11	3	朱佳琦 (中国)
鈴木柊平	3	3-11 7-11 13-11 12-10 13-11	2	LO Ka キット (中国香港)

◎トーナメント2回戦

坂井雄飛	3	11-5 11-5 12-10	0	アバタールーカス・ジョルリング (スウェーデン)
小野泰和	3	11-8 5-11 11-5 13-11	1	マニカンダン・サンダー (インド)
鈴木柊平	0	7-11 7-11 7-11	3	チェン・ジュンソン (中国)

◎トーナメント3回戦

坂井雄飛 ベスト16	0	7-11 9-11 4-11	3	HSU シェンチア (チャイニーズタイペイ)
小野泰和 ベスト16	0	7-11 4-11 4-11	3	チャン・ボードウィン・ホー・ワー (中国香港)

2023WTT ユースコンデンターバンコクに参加して

団長 青森商業高等学校 宗片 信一

今回の大会は、ジュニアサーキットがWTTの試合に変更されてから高体連として初めて参加した大会でした。私自身タイへの遠征は初めてだったため、知識が浅くどんな国なのだろうという興味と若干の不安がある中での出発でした。しかし、治安をはじめ、宿泊先、食事、体育館への移動等、直接関わる具体的な行程には特段の問題もなく、全体を通して安心・安全な大会だったと思います。一方、新しくなったWTTの大会は、登録申し込み方法等さまざまな手順が変更され、戸惑う場面がありました。例えば、今回は男女別の会期で実施され、先に行われた女子の部では試合時間が直前まで不確定のまま進むような状況でした。その後、次第に改善されたことで男子は比較的スムーズに進行したように思います。このような影響もあり、男女ではムードの違いを感じました。海外では文化や考え方の違いを想定し、如何なる状況でも平常心を保ち本来の力を発揮できるように準備することが大切だと思いました。

さて、試合を振り返ると、最初に行われた女子のアンダーセブンティの部は充実した内容で終えることができました。予選リーグに参加した4人すべてが1位通過し決勝トーナメントに進むことができました。その中でも上澤選手は各国の選手を破り順調に勝ち上がり、決勝では中国選手を倒して見事な優勝を成し遂げてくれました。技術的には回り込んでのフォアのドライブが好調で、相手が対応できないパターンがほとんどでした。久しぶりに相手を圧倒する好プレーに壮快さを感じ、連続で攻め込む力強いプレーは見事だったと思います。また、相手のブロックを弾き飛ばす威力もあり、今後が楽しみな選手のひとりであると感じました。一発で打ち抜くもしくはブロックを弾き飛ばす破壊力は大きな魅力だと思います。男子においても、アンダーセブンティの部では予選リーグを3人が1位通過、1人が2位通過となり、まずまずの戦績であったと思います。ただ、早い段階で中国選手と対戦する組み合わせとなり、準々決勝まで進んだ坂井選手がセットオール末に見事に勝利しベスト4にコマを進めました。しかし、準決勝ではアンダーセブンティ、アンダーナインティ共に征した中国の選手をギリギリまで追い詰めながらも勝ち切ることはできませんでした。全試合を通して最も見応えがあり高レベルの試合だったことを思うと悔しさが残ります。この試合に勝つことができれば、坂井選手にも優勝をたぐり寄せるチャンスがあったと感じる内容でした。

総じて今回のWTT（タイ）での試合形式は、大会参加の意義、強化の観点からも大変有意義な内容であると感じました。参加した選手は一つのカテゴリーで3～4試合を行い、勝つことで試合数を増やすことができます。日本選手は2つのカテゴリーに参加したため、2倍の試合数をこなすことができました。国際試合の経験は新たな気づきをもたらし、意欲を掻き立てる貴重な機会です。今回参加した選手たちには、世界の卓球を体感できたことに感謝し、見つけた課題を克服できるよう向上心を持って練習に取り組んでほしいと思います。来年度以降も参加できることを期待し、今後の強化に役立てることができればと思います。

最後になりますが、今回WTT ユースコンデンターバンコク（タイ）2023に団長として参加させていただきありがとうございました。大会参加に際し手続き等をしていただいた公益財団法人日本卓球協会の皆様や関係各位に感謝申し上げます。重ねてその他多くの方々にサポートいただきましたことにこの場をお借りして厚く御礼申し上げる次第です。この遠征で経験したことを今後の事業に活かせるよう尽力したいと思います。

初めに、2023WTT ユースコンデンターバンコクに参加させていただいたことに感謝申し上げます。出発前から日程終了まで、宗片先生をはじめ、全国高体連卓球専門部の先生方には数々のご配慮をいただきました。その他、関係する皆様のおかげで無事にスケジュールを終了することができました。この場をお借りし、心よりお礼申し上げます。

今回は、過去に開催されたタイジュニアサーキットに参加した経験から、ホテルや試合会場も同じであったため、比較的事前のイメージがしやすい大会でした。期間中は、大会ボランティアとして帯同してくださった方々のサポートもあり、大きなトラブルはありませんでした。この大会は試合以外のストレスが少ないため、初めての海外遠征となる選手にとってはいいパフォーマンスが期待できると思います。しかし、ジュニアサーキットとは違う試合スケジュールやスマートフォンのアプリが中心に運営される試合環境、日本だけでなく出場選手全体の試合以外の行動や雰囲気など、過去の経験では埋めきれない現状とのすり合わせに苦心しました。

試合については、以前から海外の選手はパワーが目立つラリーで得点していくイメージがありましたが、今回はインドを中心に異質型の選手が目立ちました。日本の異質型の選手とは違うタッチやタイミングには学ぶ点も多かったと思います。

一方、日本は多彩なサーブからの3球目が得点源の選手が多かったように思えます。これは日本の特徴でもあり、試合を有利に展開する大切な要素です。ただ、3球目で先手をとってもラリーに持ち込まれて失点をするケースがありました。さらに、レシーブでは展開が作れず、種類を増やしてチャレンジしたものの得点につながらないことが多くみられました。今後は、ラリー前の技術を磨くこととあわせて、ラリーによる得点率を上げなければなりません。回転量が多く質の高いボールと厳しいコース取りに対応するフィジカルやポジション、打法の工夫だけでなく、得点するためのアイデアが必要だと思います。質、タイミング、スピード、コース、変化などを駆使し、自分なりのラリーを探究することで海外選手に負けないラリー力を身につけるべきだと思います。

最後に、帰国後の解団式の際、生徒にいくつか話をしましたが、その中の一つを以下にまとめます。

【スポーツ選手として海外で交流する意義】

大会期間中、日本選手だけでなく、会場にいるほとんどの選手が自分の国の選手以外と交流を深めていました。スマートフォンで写真を撮り、翻訳アプリを駆使しながら談笑している光景は時代を感じます。試合では勝負にこだわり、試合以外では交流を深めることはスポーツ選手だからこそできるのだと思います。入り口は、「海外の選手と友だちになれた」「言葉が通じて楽しかった」でいいと思います。

一方、スポーツとは違う政治の舞台では国と国によっては緊張や対立があったり、宗教的な理解が求められるケースもあったりします。こういったスポーツの世界以外の視野を持つことで、一步引くのではなく、それでも交流を深めようとする姿勢をもってほしいと思います。スポーツだからこそできる交流の意義があります。世界で試合をするということは、高校生であっても政治や宗教を超えた存在であり、役割であると理解してもらいたいと思います。

今回、全国高体連代表で WTT ユースコンテNDERバンコク 2023 に男子監督として参加させていただき、誠にありがとうございました。期間は、9月12日に前泊集合し、9月13日出発、9月18日早朝に帰国の予定で、試合は9月15日～9月17日でした。

今大会は、男女別日程開催ということで、前半に女子・後半に男子で行われました。これまで海外経験はありますが、タイは初めて行く国なので少し不安はありましたが、現地スタッフの方とお会いできて少し安心しました。それと同時にバンコク空港に到着して、空港の大きさと人・車の多さにもびっくりしました。空港を出発してからは、まずホテルに移動しチェックインした後、会場に行き練習と食事を済ませました。会場は、イオンモールのような中にイベントホールのような施設があり、そのホールに12台の卓球台が並び、女子が試合をしていました。U19の準決勝・決勝戦が行われていました。練習場も併設されており、そこで調整練習して次の日に備えました。

翌日の14日は、別階級の試合が行われるため、一日練習日程となり練習会場を中心に練習し、メイン会場が空いている隙間に練習をすることができました。エアコンは効いていましたが、気温・湿度も高く試合に影響があるか少し心配はありました。食事は、イオンモールの中なので、日本食もあり環境的には問題なく過ごせそうだと感じましたが、海外なので気を付けるように注意をしました。翌日は朝が早く6時には起床・アップ・朝食・バス移動で、9時からの試合に備えるように、予定の確認をしてその日を終わりました。

15日は、U17の予選リーグから始まり、初戦の石井選手はシードの中国選手でカットマンとの対戦でした。バック面が表ソフトでフォアは攻撃力があり、ホウエイチョウ選手を思わせる戦型でした。初めは、バックカットの回転量についていけずに、2ゲームを落とすも、3ゲーム目からフォア側とミドルを攻めミス进行、3ゲーム目を獲ることができました。しかし、4ゲーム目はそのフォアとミドルのボールに対して攻撃を仕掛けてこられ、ブロックミスや狙ってもカウンターミスとなり1-3で敗退しました。その他は、予選を一位で勝ち上がり、決勝トーナメントに出場となりました。夕方から決勝トーナメント一回戦が始まり、石井・小野・鈴木選手が出場し、予選よりレベルアップした対戦相手にしっかりと勝ち進みました。二回戦では、全員が出場し石井・鈴木選手が同士討ちとなり、鈴木君が勝利し3人の選手が勝ち上がりました。三回戦（ベスト8決定戦）では、三選手ともに中国選手との対戦で、坂井選手が何とか競り勝ちベスト8へ勝ち進みました。坂井君と中国選手の試合を振り返り、前半はレシーブに対して打たれることが多かったのですが、回転系のチキータレシーブをミドルに入れて打たれないようにした。そうすることで、三球目攻撃で打たれることが減り、自分から攻撃をすることができ展開が良くなった。しかし、4ゲーム目からはバック対バックをフォアに振られ始めたので自分から打てない展開になり、そこでは先にフォアへ振る展開に切り換えることで流れが良くなった。良く展開や流れが変わりながらも、最後は自分の得意なバックハンドドライブの連打で攻撃し競り勝つことができました。この勝利では、中国選手に勝つためには展開を読み、自分がどのように攻めなければならないのかを考えられる選手でないと勝てないと感じました。小野・鈴木選手は、ともに打たれた時にブロック技術やカウンター技術がしっかりと出来ていないし、その前のレシーブ技術や台上技術が甘いのが敗因であったと本人たちも気付くことができていた。その反省を活かし、明日からのU19に備えた。

16日は、10時からU19の予選リーグから始まり、石井選手はシードの香港選手と鈴木選手はシードの韓国選手との対戦でしたが、サーブレシーブの差があり自分たちの攻撃パターンを出せないまま敗退した。その石井・鈴木選手は予選を二位勝ち上がり、坂井・小野選手は予選を一位で勝ち上がり、決勝トーナメントに出場となりました。夕方からは、U17の準々決勝からが行われ、坂井選手が挑みました。チャイニーズタイペイの選手に1ゲームを取られるものの3-1で勝利し、準決勝へ勝ち進みました。続く準決勝は、第1シードの中国選手で本人も対戦したことのない相手でした。前日の中国選手の

勝利が大きく、回転系のチキータレシーブをミドルに入れて打たせないことを中心にしていこうと話し試合に入りました。その戦術は成功し、1ゲーム目を獲ることができた。しかし、2ゲーム目からはフォア側からフォア前にサーブを出され、チキータができない展開になった。その為、三球目攻撃で打たれる展開が増え攻撃の数が減ってしまった。3ゲーム目も中盤リードを許しましたが、後半追いつきながらの展開だったが、9-9オールの場面でのドライブミスが勝負の分かれ目になりました。4ゲーム目は、序盤からリードされ追う展開になり、そのままリードを許して敗退してしまった。惜しい場面もあったので、とても悔しい敗戦となりましたが、3位入賞することができました。

17日は、10時からU19の決勝トーナメント一回戦が始まり、石井・鈴木選手が出場し、石井選手は中国選手に敗退、鈴木選手は香港選手に勝利しました。続く二回戦では、坂井選手はスウェーデン選手、小野選手はインド選手に勝利しました。インドの選手は、バックハンド、フォアハンドともに、スマッシュをしてくる選手で対応が難しかった。ループドライブやゆっくりなドライブに対しては、厳しいピッチも早いいため崩されそうになったが、ドライブをミドルに打つことを多くし、詰まらせてうまく打てないようにすることができた。鈴木選手は中国選手に、レシーブがうまくできずに先手を取られてしまっていたが、チキータの強弱つけると強く打たれることが少し減り、ラリーでもポイントを獲得することにつながった。しかし、後半は厳しいコースに打たれてしまい敗退しました。続く三回戦では、坂井選手は昨日勝利していたチャイニーズタイペイの選手、小野選手は石井選手が敗退した香港選手に敗退しました。坂井選手は、勝っているだけにもったいない敗戦となりました。小野選手は、サーブレシーブを丁寧にして、うまくラリー戦にもっていくも最後は打ち負けてしまった。

全体的には、シード選手でありその中でも中国選手に敗退してしまった。その中で感じたことは、サーブからの三球目攻撃の威力があることでした。それはシニアの選手を見てもわかることなのですが、その中でどのようにしたら打たれるのを防ぐことができるかです。ミドルにチキータと回転系のチキータを混ぜることが重要で速いチキータだけでは簡単に打たれてしまうことがわかりました。また、戦術の切り替えの早さが重要です。展開の悪い時でも自分のやりたいこと重視し同じことをしてしまいがちですが、サーブの構えの位置を変えたり、サーブの回転・強弱を変えたりするなど、うまく試合の状況の変化に気付くことが重要です。その中でも中国選手に勝利した時は、流れが相手のペースになっても自分のペースに戻すことができ、流れをうまく切り変えることができるようになることが必要だと実感しました。それは、日頃から色々な場面で自分の切り換えができるように心掛けていると卓球でも生活でも考え方が身に付いていくと思います。また、接戦の場面（9-9）で、ミスしてしまった一本の重みもあり、一本のミスが無かったら勝っていたかもしれないが、その一本で負けたとも考えられる。この経験は、それぞれの選手が今後に活かして頑張ってほしいと思います。

最後になりましたが、私も選手も非常に良い経験となりました。今後の様々な大会で自分の持っている力をしっかり発揮できるように頑張っていきたいと思いました。今回の遠征に対してご尽力いただきました、日本卓球協会、全国高体連卓球専門部、タイ卓球協会など多くの方々に感謝し、お礼申し上げます。ありがとうございました。

香ヶ丘リベルテ高等学校 上澤 杏音

タイ WTT ユースコンデンターに参加させていただきありがとうございました。私は国際大会に出場するのが約 5 年ぶりでした。今回、海外の選手と試合をしてとても良い刺激を受けました。自分でも驚いていますが U-17 で優勝することが出来ました。

私は少し前までは全く結果が出ず苦しい時期がありました。自分のレベルと卓球に対する自己肯定感がとても下がってしまいました。しかし、自分を見つめ直し一から頑張る気持ちで練習してきました。最近結果を残せるようになり今大会では中国選手を 2 人倒して自分が成長していると実感する事ができました。感じたことは、トップ選手になってくるとコース取りや緩急をつけるのが上手く、特に中国の選手は回転量が飛び抜けていました。

また、海外ではあまり日本ではない異質系の選手など、どんな相手でも勝つためには対応能力が必要になってくると思います。今回の経験を活かし、ここで満足せず、もっと上を目指して謙虚な気持ちで頑張りたいと思います。

横浜隼人高等学校 桧山 夏望

今回はタイ遠征に参加させて頂きありがとうございました。いつもと違う環境で違う国の選手と試合をすることができてとても良い経験になりました。

今大会で 1 番強く感じたことは、自分と海外の選手とのラリー力の差です。海外の選手はラリーが強く、ほとんどラリーで点数を取る事ができませんでした。また、ラリーのボールの質が高く何本も連続して強いボールを打ってくるのに対して、自分が押されて下がってしまう展開が多くありました。したがって、これからは質の高いボールに対し、自分が連続で打てるような体をつくることと、しっかりとポジションで打てるようなフットワーク力を身につけていきたいです。

初めての国際大会で最初は緊張しましたが色々なことを学ぶことができて良かったです。このような貴重な経験をさせてくださった監督、先生方には本当に感謝しています。ありがとうございました。この経験を生かし次の大会につなげられるように頑張ります。

愛み大瑞穂高校 遊佐 美月

今回、国際大会に出場させていただいて、私はとても成長することができたと思います。以前、初めて中国の選手と試合をした時、自分の試合ができず、簡単に負けて終わってしまいました。しかし、今回、中国の選手と対戦した時には、相手は強いからこうしないといけないと思うのではなく、冷静にいつも通り考え、相手をよく見て試合をすることができました。勝つことはできませんでしたが、とてもいい試合ができました。

今回、私が強く感じたことは、海外の選手はコース分けです。ちょっとしたコースの変化で私はとてもやりにくいと感じました。したがって、私ももっとコース取りを意識して試合をしていけるようにしたいと思いました。海外の選手と試合をして新しい課題もたくさん見つかったので、この機会を無駄にせず、練習に取り組んでいきたいです。

最後に、いろいろな経験をさせてくださった団長、監督には感謝しています。ありがとうございました。

桜丘高等学校 伊藤 ゆづき

今回、国際大会に出場させていただいたことにより、たくさんの方に気づき、感じさせられました。たくさんの数の試合をすることができたのですが、負けた試合はほぼフルゲームと接戦による敗戦でした。高校生になってから、フルゲームの敗戦の数が勝利よりも大きく上回っています。今大会での敗因は普段の練習に取り組む意識が自分の思っていたレベルよりもかなり甘いのだと感じました。好試合の時と接戦の時の力を発揮する差が大きく、これは自信の差だと思います。技術力をあげて、「入る」「やれる」と自分に自信をもつしかないと思います。技術的な面ではサーブ力、ラリー力、動き、細かいことは多くありますが、他の試合を観戦していても、全体的に自分が劣っていることに気づかされました。いろいろな課題を見つけることができたので、チームメイトと協力し、レベルアップしていきたいです。

最後に、帯同していただきました団長、監督、チームメイトには大変、感謝しています。短い期間ではありましたが、ありがとうございました。

愛工大名電高等学校 坂井雄飛

今回の WTT ユースコンテNDER では結果は U17 で 3 位、U19 で 16 という結果で自分の中では少し物足りないものとなってしまいました。

今大会を通じて良かった点は、U17 の 8 決定戦の試合で中国人選手相手に 3-2 で勝てたことです。1 セット目を簡単に取られ 2 セット目も 3-8 と負けている状況でサーブの配分やレシーブの選択を状況に応じて最善を尽くし、凡ミスも少なく相手の読みを外すことができ、コースどりも良かったことです。技術面では、バック対バックで先手を取っていて先にストレートに回せたり、ミドルに攻めることができていたり、チャンスがあったら回り込んで狙いにいけていたことが良かったと思います。

悪かった点は、U19 の 8 決定戦で台北の選手と試合をした時に、前日勝っていただけであり気持ちが守りに入ってしまう、入れにくいプレーが増え思い切るプレーが少なくなつて、先に相手に先手を取られてしまい、結果も 0-3 と悔しい結果に終わってしまった。次の大会では今回の負けを無駄にせず活かしていきたいです。

生活面では、海外に行き慣れていたおかげで環境にも食料にも困ることなく問題なく過ごせたので良かったです。これからは、国内ではもちろん国外でも中国人選手を倒してトップに行けるように頑張っていきます。

今回は、このような国際大会に出場させていただき、本当にありがとうございました。

遊学館高等学校 鈴木 柊平

今回の WTT ユースコンテNDER バンコクを通して、試合の中で良かった点や悪かった点などがたくさんありました。その中でも、技術面での反省点だったり精神的な部分だったりの反省点もありました。また、今回は初の海外試合ということで慣れない部分が多かったのですが、今後自分のためになる試合ができたと思います。

1 試合目のスウェーデンの選手との試合では、相手の回転のあるゆっくりとしたボールに対しての対応が最初はあまりできなかったと感じました。1 試合目というのもありましたが、いつも通りできたとは思いませんでした。いつもは連打を心掛けていける時は強打をしています、焦りと早く決めないといけないと思ひすぎて、無理なボールを強打しにいったりいつもより打球点が落ちていたりと思います。その試合の中でも、後半になるにつれて少しは対応できたと思います。

2 試合目のフィリピンの選手との試合では、かなり打ってしてくれる選手で自分としてもやりやすい

選手でした。1 試合目の反省を活かして攻め急がずゆっくりと相手の卓球に対応することができました。

3 試合目の韓国の選手との試合では、多少ネットやエッジボールは多かったのかもしれませんが出だしのレシーブから自分で攻めにいくことができ、3 ゲーム目は取られましたが、1. 2. 4 ゲーム目は全て自分のペースで試合を組み立てることができました。

決勝トーナメント 2 回戦の石井との試合では、自分から攻める展開が少なく、焦ってレシーブから無理に攻めようとしてのミスが多かったです。最後は、エッジボールなどが絡まり勝つことができましたが、焦りをなくしていけるようにしていきたいです。

決勝トーナメント 3 回戦の中国の選手との試合では、相手がアジアユースチャンピオンということあり自分が思い切っていくしかない試合前から心に決めてやっていました。1 ゲーム目はかなり自分から攻めることができリードする場面もありましたが大事な時の 1 本の手堅さが中国の選手は格が違うなと感じました。大きな展開のラリーになると一球一球の球の重みや深さが全然違い自分のボールで打つことができず、合わせることにしかできませんでした。それに比べ、坂井の試合を見ていると毎回の相手ごとにしっかりと対応して、中国選手と試合をしている時も粘り強くボールを返していて自分も見習いたいと感じました。

U-19 では最初のリーグで韓国の選手に対応しきれず簡単に負けてしまいました。相手の緩急をつけたボールに対してそのまま合わせるだけになってしまってそれを狙われたのがあまり良くなかったです。決勝トーナメント 1 回戦の香港の選手との試合の時は、1・2 ゲーム目をリーグで試合をした韓国の選手と同じような感じで取られてしまいましたが、3 ゲーム目からは捻じ込みを入れながらも泥臭く返球できたことが多かったのも、その部分は今大会中に成長できたい部分だと思います。

決勝トーナメント 2 回戦の中国の選手との試合では、相手は異質でアジアユース 2 位で U-17 同様、自分が思い切らないと勝てない相手だと思っていたのでかなり攻めることはできたのですが、次の球の準備が遅くなりラリーになっても相手のミスを誘うことしかできませんでした。どんな戦型が来ても対応できるような卓球にしていきたいです。

生活面では、日本と違って洗濯が手洗いということでこれも初めての経験でした。自分が思っていたよりも大変でした。日本よりも試合時間が遅くならない部分もありましたが、自分なりに対応できていたと思います。

今回の大会では、色々な年の近い世界レベルを肌で感じることは今後の成長に大きく関わってくると思います。たくさん課題も見つかりましたし、他国との交流も自分なりにできたと感じました。今回の国際大会を国内大会の中でも活かせるようにこれからの日常生活や練習から意識をしていきたいです。今回は、国際大会に派遣していただき、ありがとうございました。

希望が丘高等学校 石井 佑季

今回の WTT ユースコンテナーでは試合をしていて良かった所と課題が残った部分がありました。良かった点は、初戦の U17 予選リーグの中国人選手が相手の時に、0-2 負けだったけど、焦らずに 1 ゲーム取り返せたところです。中国人選手に 2 ゲーム取られ、マッチポイントを握られている状態でも絶対取り返すという強い気持ちがあったのが良かったと思います。また、2-0 で勝ってる時に気が緩んでしまうことが国内の試合ではあったけど、自分から打って攻め切って勝つことができたのは良かったと思います。

逆に悪かった点は、U19 の香港の選手と朝の 10 時からやった時に、身体も頭も良い状態で試合に臨めていなくて、相手に流れを掴まれたまま負けてしまった。自分から先に攻める展開が全くなく、ラリーにもっていくこともできなかった。

大会を通して技術的な課題は、チキータも種類を使い分けることが重要と感じました。早いチキータを使うことが多かったのですが、回転系のチキータやコースの変化を取り入れることで、自分の打つ展開になりやすいということがわかりました。そして、U19で対戦した香港選手のストップ技術の精度が高く、全く打てなかったことが印象に大きいです。チキータには対応できたのですが、ストップをされると台に入るのが遅れ、台から出るダブルストップになり、先に打たれるパターンが多かったです。そのストップ技術をマネできることと、ストップに対して自分がどう対応していくのかを考えて台上技術の練習をしていきたいです。

生活面では、日本では当たり前にある洗濯機がホテルには無く、日本とは違う環境で試合も夜遅くまでやるのがほぼ毎日だった。その為、ユニフォームの洗濯を手洗いでする時間もあまりなかったので、今ある環境が当たり前ではないことを感じました。そして、どんな環境の中でも十分な準備や休養をとり、尚且つ体力があり試合に集中できる選手が上位に勝ち上がっていると感じました。

今回の大会で学んだ経験をこれからの国内大会や国際大会でも活かせるように日頃の練習や生活でも精進していきたいと思います。このような国際大会に出場させていただき、本当にありがとうございました。

出雲北陵高校 小野 泰和

今回はWTT ユースコンテナー・バンコク2023に参加させていただき、ありがとうございました。結果はU17、U19ともにベスト16という結果でした。負けた試合はどちらも3対0で、世界のトップの選手との大きな実力の差を感じさせられました。今大会で改めて感じた課題を今後の練習で改善していきたいと思いました。

課題だと感じた点としては、台上技術が挙げられます。大会を通してレシーブの精度が低く、不利な展開でラリーがスタートすることが多くありました。またサーブを持っている時も、ストップ処理が中途半端になることがあり、勝負所で狙われてしまいました。母体での練習で重点的に台上技術を練習しているので、以前に比べるとレベルアップしていると思いますが、世界に目を向けるとまだまだ台上技術を磨いていかなければならないと感じました。

その他の課題としては、早く決めたいと思うあまり、攻め急ぐ傾向があるということです。これも以前からの課題ではありますが、世界で勝つためには速いボールを打つことだけに固執するのではなく、緩急を織り交ぜて相手のミスを誘うような巧さも身に付けなければならぬと感じています。

大会を通じて課題が明確になっただけでなく、自分の良さを再認識することもできました。ラリーになったときのフットワーク力、動いた時に体のバランスが崩れない体幹の強さは、他国の選手にも引けを取っていませんでした。今後は短所を補う練習を積極的に行うだけでなく、自分の長所を更に伸ばしていきたいです。また技術以外の面においても、日本のトップの選手と生活を共にしたり、世界のトップの選手の行動、プレーを見たりして勉強になる部分が多くありました。練習前の入念なストレッチや、試合前の自分の調子を最大限まで上げるための練習、試合運び等、学ぶことが多くあり、とても勉強になりました。今後自分が更に成長するためにはどれも必要なことだと感じました。

私にとって海外に行くことが初めての経験でした。日本とは気候が違ったり、食事が違ったり、言語が違ったりと慣れないことばかりでした。しかし世界で戦うということは、そういったことにも柔軟に対応していかないといけないのだと感じました。

引率して頂いた宗片先生、石田先生をはじめとする今大会に関わって頂いた方々、一緒に戦ったチームメイトの皆さん、ありがとうございました。この経験を糧に更に上を目指して頑張りたいと思います。